

オセアニアの音楽 (1)

—オセアニアにおける楽器の分布と伝播—

桂 博 章

Music of Oceania (1)

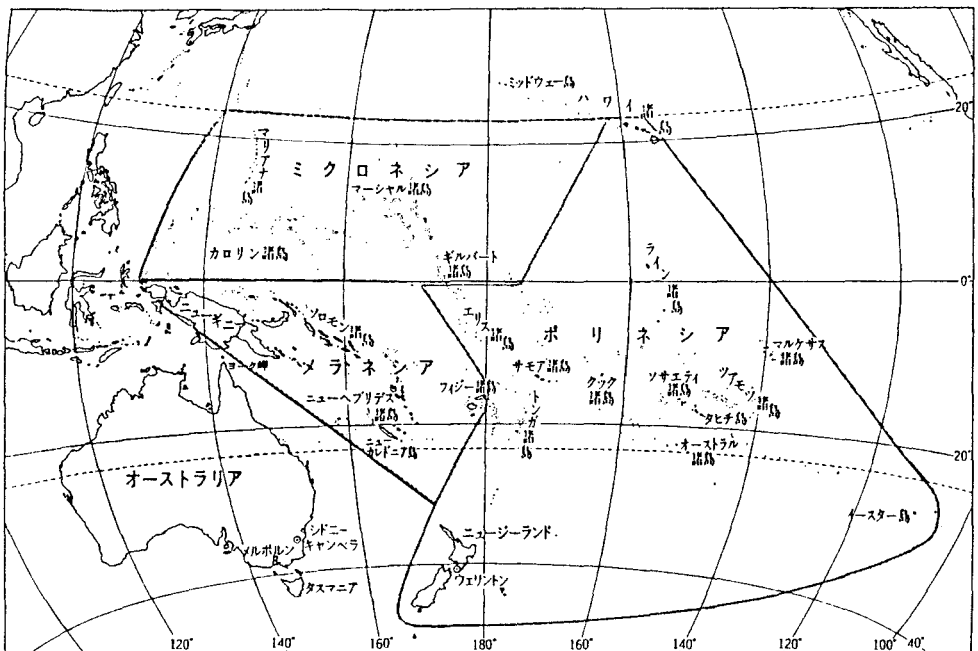
—The distribution and diffusion of musical instruments in Oceania—

HIROAKI KATURA

1. はじめに

オセアニアは、ミクロネシア、ポリネシア、メラネシアの三つの地域に大別されるが、これらの地域においては、利用できる物質資源、社会組織の大きさや階層化の程度、人々の移動等の結果により、独自の音楽文化を生みだしてきた。楽器も音楽文化を構成する重要な要素であり、各地域、諸島、島により、その現れ方に違いが見られるし、また、同じ種類の楽器であっても、楽器の構造の細部が異なることが少なくない。たとえば、ダンスをしながら、手に長い棒を持って互いに打ち合う dance sticks (ダンス・スティック) は、ミクロネシアに顕著に見られるが、丸太状の木塊に割れ目を入れてバチで打つ slit-drum (スリット・ドラム) は、メラネシとポリネシアに現れる楽器であり、ミクロネシアには無い。また slit-drum の割れ目の形状にしても、ニュー・ギニアなどのように、細い割れ目で、中は広い空洞状になっているものあれば、フィジー諸島やポリネシアのように、slit-drum とは言えないような幅の広い割れ目で、槽状といえるものもある。

オセアニアの地域区分図 (石川 1987 より)



楽器も含めたオセアニアの音楽文化についての研究は、限られて地域については綿密な現地調査が行われるようになり、詳細な情報が得られるようになってきているが、それらの研究は特定の地域に集中する傾向にあり、各音楽文化の相互関係については、情報の不足もあって、それほどは明らかにはなっていない。しかし、広大な海洋に散在するこれらの島々の間では、航海技術に支えられた人々の接触が頻繁にあったと想像され、文化人類学、考古学、言語学等の近年の研究からも明らかのように、各島、各諸島の文化は、それぞれ独自に発達したというよりは、互いに影響し合い、謂わば文化圏を形成しながら発達したと考える方が妥当である。音楽に関して地域を限定してその例を挙げると、ミクロネシアのヤップ島とトラック諸島では、それぞれ独自の音楽様式、及び、音楽の種目を持っているが、その間にある多数の小さな珊瑚島を媒介として相互に影響を与え合って音楽様式を発達させてきた(桂 1988)。視点をマクロにとれば、これと同様のことがオセアニア全域にも当てはまり、各島、各諸島の文化接触により、楽器の分布の仕方には一定のパターンが見出せるのではないだろうか。

この小論の目的は、オセアニアの特定の地域に存在する楽器の種類、および楽器の構造上の特徴から、オセアニア全体における楽器の分布の仕方の概略を論じ、そこから、楽器の伝播の仕方についての仮説を導き出すことにある。また、最終的には、因子分析により各地域の相互関係を導き出す予定であるが、筆者のデータの収集がまだ十分ではないので、今回は予備的研究の意味をもたせ、データの整理を通して、今後のデータ収集の方向づけをすることも目的としている。

2. 方 法

オセアニアの楽器について書かれた文献、及び写真⁽¹⁾から、特定地域の一つの楽器を1レコードとして、以下の30項目を整理してデータ・ベースに入力した。

1. 楽器名(日本語名、英語名、現地名)
2. 地域1(諸島)
3. 地域2(島)
4. 地域(地名、部族名)
5. 楽器の特徴的構造(1から6まで)
6. 楽器の用途(1から4まで)
7. 楽器の素材(1と2)
8. 演奏者の性別
9. 演奏者の人数
10. 演奏形態
11. 演奏者の社会的階層
12. 楽器の聖・俗の区別
13. 奏法(1と2)
14. 音楽構造(1と2)
15. データのソース
16. 備考(1と2)

オセアニアの楽器に関する記述は断片的なものが多く、以上の項目の情報を完全に満たす記述は皆無に近く、ほとんどの記述は断片的な情報しかもたらさないが、こうした記述も1レコードとして入力し、今回、入力したレコードの総計は786となる。次に、入力されたレコードのなかで、同一地域の同一楽器についてのものと思われるものを取り出し、ひとつのレコードにまとめた。

このような段階を経て整理されたレコードから、パソコンのソフト機能を用い、オセアニアの各諸島、各島に存在する楽器、並びに、同一楽器の構造上の特徴を取りだし、楽器の分布の仕方について検討を加えた。

3. オセアニアにおける楽器の分布の概略

(1) オセアニアにおける楽器の種類

オセアニアにおける楽器の種類の数、楽器の構造上の細部の相違、あるいは素材の違いをどのように捉えるかで異なってくる。たとえば、ほら貝は、縦吹きであるか横吹きであるか、マウス・ピースの有無により細分類することができるし、ガラガラも大きくひとつの種類としてまとめることもできれば、素材や発音原理から、さらに細分類することができる。

表1は、ホルンボステル=C. ザックスの楽器分類システム(Hornbostel & Sachs 1914)を元にしたオセアニアの楽器の分類表である。彼等の分類コードではアラビア数字を用いているが、パ

表1：オセアニアの楽器の種類

番号	分類コード	楽器名	番号	分類コード	楽器名
1	AAA.AA	struck sticks	34	AAB.BAA	stone plate
2	AAA.AA	dance sticks	35	AAB.BAA	scraping stick
3	AAA.AB	fan	36	AAB.BC	scraped gourd
4	AAA.AB	a pair of beaters	37	ABA.B	jew's harp
5	AAA.AD	struck vessels	38	ACB.A	flat slap
6	AAA.ADA	stone	39	ACB.B	friction block
7	AAA.B	percussion rute	40	BAA.AA	drum
8	AAA.BAA	a piece of wood	41	BAA.BD	hourglass shaped drum
9	AAA.BBA	tin plate	42	CAA.AAA	stick thizer
10	AAA.BBA	sounding board	43	CAA.ABA	arrous struck against bow
11	AAA.BBA	percussion beam	44	CAA.ABA.AB	musical bow
12	AAA.BBA	percussion plate	45	CAB.AB	tube thizer
13	AAA.BBA	stamping plate	46	DAA	buzzing leaf
14	AAA.BCA	a piece of bamboo	47	DAB.ACB	mouth organ
15	AAA.BCA	rolled mat(bamboo)	48	DAB.BB	whirling top
16	AAA.BCA	stamping tube	49	DAB.BB	whirling disk
17	AAA.BCA	rolled mat	50	DAB.BB	bulloarer
18	AAA.BCA	bamboo bundles	51	DAB.BB	whirling vessel
19	AAA.BCA	split bamboo	52	DAC	water drum
20	AAA.BCA	unslit hollow-log drum	53	DBA.AAA	end-blown flute
21	AAA.BD	bottle	54	DBA.AAA	nose flute
22	AAA.BD	gourd lime-pots	55	DBA.AAA.BA	wooden vesell with reed tube
23	AAA.BD	gas cylinder	56	DBA.AAA.BA	stopped pipe
24	AAA.BD	galvanized pot	57	DBA.AAB	panpipes
25	AAA.BD	gourd(gourd drum)	58	DBA.AAB	bundled panpipes
26	AAA.BD	tin	59	DBA.ABA.AA	transverse flute
27	AAA.BDA.A	slit-drum(bamboo)	60	DBA.AC	vessel flute
28	AAA.BDA.A	slit-drum	61	DBA.BBA.DA	police whistle
29	AAB	struck ball	62	DBB.A	reed whistle
30	AAB.A	mat-flicking	63	DBB.BAA	bamboo clarinet
31	AAB.A	leaf bundle	64	DBC.A	bamboo horn
32	AAB.AAA	rattles	65	DBC.AAA	conch-shell trumpet
33	AAB.AAB	jingles	66	DBC.ABA	wooden trumpet

ソコンのソフト機能を利用する便宜から、数字の1, 2, 3... は、アルファベットのA, B, C... に対応させて置き換えてある。また、分類コードは、文献の記述から推定できて範囲のレベルまでにとどめているので、分類のレベルは統一されていないし、また、ホルンボステル＝ザックスによる分類コードからは同一の楽器であっても、素材や形状、演奏法から一般には別の名称が与えられているものは、異なる種類の楽器とした。

表1には合計66種類の楽器が挙げられているが、そのうち police whistle、tin plate、gas cylinderなど、西洋からの移入品を除くと、土着の楽器は63種類⁽²⁾になる。

表1の楽器の分類コードからは、分類コードAで始まる体鳴楽器 (Idiophone) が多く、99種類中、55種類を占めており、中でも直接打奏体鳴楽器 (分類コードAAA) が30種類と、最も多い。

情報の不足から楽器の分類のレベルを統一できないので、明確には断定できないが、オセアニアにおいては「叩く」、「打つ」という奏法を主体とした体鳴楽器が多く、弦鳴楽器 (Chordophone, 分類コードC) と膜鳴楽器 (Membranophone, 分類コードB) は、比較的少ないと言える。

(2) オセアニアにおける楽器の分布

表2はオセアニアの各地域における楽器の分布状況を示したもので、“1”はその地域に楽器が存在することを示し、“S”は分類上は同一の楽器であっても、形状から判断すると、他の地域の楽器と無関係に独立して存在する楽器であることを示している。

表2を見てわかるように、ミクロネシア(AからH)では楽器の種類が少なく、特にドラム類(膜鳴楽器)はほとんど無い。これに対して、メラネシア(JからS)では楽器の種類が豊富であり、ポ

リネシア(TからAE、並びにI)でもサモア諸島やトンガ諸島、ハワイ諸島などでは豊富であることがわかる。

また、楽器の種類によって分布している範囲が異なっている。たとえば、conch-shell trumpet (ほら貝)は全域に渡ってまんべんなく分布しているし、end-blown flute(縦笛)、transverse flute(横笛)、nose flute(鼻笛)の類も広い地域に渡って分布している。オセアニア全域には分布していないが、ドラム類とslit-drum(スリット・ドラム)は主としてメラネシアからポリネシアにかけて、stamping tube(搗筒)とpanpipes(パンパイプス)⁽³⁾はメラネシアからポリネシア西部にかけての広い範囲に渡って分布している。分布の範囲をさらに限定すると、dance sticksとstruck sticks⁽⁴⁾は、メラネシアとポリネシアにもあるが、形状も考慮にいと、主としてミクロネシアの要素であると言える。また、同様に、rolled matは西ポリネシアのサモアとトンガ諸島、及び、メラネシアのロイヤルティ諸島に、bamboo trumpetはメラネシアのニュー・ギニア島とソロモン諸島のブカ島に現れ、これらはbundled panpipes(束状パンパイプス)、hourglass shaped drum(砂時計型ドラム)と並んで、比較的限定された地域に現れる楽器であるといえる。

独立的に現れ、特定の地域に限定される楽器は、オセアニア全域に見られるが、楽器の種類の豊富なメラネシアに特に多く、ビスマルク諸島のニュー・ブリテン島のfriction block、ニュー・ギニア島のwater drum⁽⁵⁾やscraped gourd、ニュー・ヘブリデス諸島のwooden vessell with reed tube⁽⁶⁾などが挙げられる。また、ハワイ諸島やニュー・ジーランドのポリネシア周辺部にも比較的多く現れ、その例としてハワイ諸島のstamping plate⁽⁷⁾や、瓢箪に取り付けた軸を紐で回転させて発音するgourd rattles、立木から舌状の板を切出したニュー・ジーランドのpercussion plateなどが挙げられる。

以上の例が示すように、分布のパターンからオセアニアにおける楽器を分類すると、大きく4つに分けることができる。第1はオセアニア全域に広く分布する楽器であり、第2はある程度広い地域に分布する楽器、第3は比較的限定された狭い地域に分布する楽器、そして、第4は他とは関係なく特定の地域に独立的に存在する楽器である。

4. 広く分布している楽器の構造上の特徴

オセアニアにおける楽器の分布は、特定の地域における特定の楽器の有無からだけではなく、同種の楽器であっても、その楽器の構造上の違いも、分布の仕方を判断する上で重要な要素となる。なぜならば、楽器が伝播する時には、元の形をそのままコピーするのではなく、その地域の音楽的な嗜好や利用できる素材の影響を受けて、改変が加えられるからである。同一楽器の構造上の相違は、異なる地域の間関係を示すばかりではなく、独立性を表すひとつの指標となると考えられる。

表2からは、オセアニア全域に渡って分布している楽器、並びに、ある程度、広い地域に渡って分布している楽器として、dance sticks、struck sticks、jew's harp、rattles、slit-drum、stamping tube、conch-shell trumpet、end-blown flown flute、nose flute、panpipes、transverse flute、drum類を挙げるができる。このうち、構造がある程度複雑であり、楽器についてのデータが比較的揃っている楽器について、地域による構造上の差異を論じることとする⁽⁸⁾。

(1) jew's harp(口琴)

jew's harp(口琴)⁽⁹⁾は、ミクロネシア、メラネシア、ポリネシアの広い範囲に渡って分布しているが、弁が本体から切り出される「切出し弁」式と本体に紐で結び付けられる「取付け弁」式とに分かれる。「切出し弁」式のjew's harpは、ニュー・ギニア島と、パラウ諸島に分布している。また、「取付け弁」式のものは、ポリネシアのニュー・ジーランド、サモア諸島、マルケサス諸島

表3: jew's harp (口琴) の特徴の分布

番号	楽器名	特徴	地域 1	地域 2	ソース
377	jew's harp	切出し弁	Irian Jaya	Awenbiak	7
378	jew's harp	切出し弁	Irian Jaya	Humboldt Bay	7
379	jew's harp	切出し弁	Irian Jaya	Sentani Lake	7
376	jew's harp	切出し弁	Irian Jaya	Waigeo Is.	7
381	jew's harp	切出し弁	Papua New Guinea	W.H.Province	7
74	jew's harp	切出し弁	Papua New Guinea		7
582	jew's harp	切出し弁	Palau Is.		2,8,17
382	jew's harp	取付け弁	Papua New Guinea	W.H.Province	7
618	jew's harp	取付け弁	Hawaii Is.		7,30
620	jew's harp	取付け弁	New Zealand		12,30
254	jew's harp	取付け弁	Samoa Is.		3,5
619	jew's harp	取付け弁	Marquesas Is.		3,6 30
382	jew's harp	金属製	Papua New Guinea	W.H.Province	7
519	jew's harp	椰子の葉の主脈	Tonga Is.		9

と、メラネシアのパプア・ニュー・ギニア(ニュー・ギニア島の東半分)に分布している。しかし、パプア・ニュー・ギニアのものは、素材が金属で、形状は棒状である。したがって、「取付け弁」式の jew's harp はポリネシアの要素であるといえる。

(2) slit-drum (スリット・ドラム)

slit-drum はメラネシアからポリネシア、そしてミクロネシアの一部(ギルバート諸島)に渡り広範囲に分布しているが、その構造は多様性に富んでいる。

直立した slit-drum はニュー・ヘブリデス諸島のマレクラ島とベンテコンスト島の南部、アドミラルティ諸島、サモア諸島、ササイエティ諸島のタヒティ島に見られるが、ニュー・ヘブリデス諸島のものは、地面に埋め込まれ、アドミラルティ諸島のものは木で支えられる。タヒティ島にも直立した slit-drum はあるが、それは近年、トンガから移入されたものであり(Smith 1983)、従って、slit-drum を直立させて演奏するのは、メラネシアと西ポリネシアの要素であるといえる。また、ニュー・ジーランドのものは、綱で吊り下げられる懸垂式ともいべきもので、他のどの地域にも無いものである。

形状については、両端が細くなっているボート型は、メラネシアではニュー・ギニアの北部海岸地方とロイヤルティ諸島、ポリネシアではフツナ(Futuna)、ハワイ、ニュー・ジーランドといったように広範囲に分布し、このうちハワイのものは、高さがほとんどなく、板状に近いものである。一方、円筒型のは、メラネシアとポリネシア西部のトンガ諸島に見られる。

スリットが広く、槽型とも呼べるものは、メラネシアの東部とポリネシアの広い範囲に現れ、ポリネシアにおいて支配的な要素であるといえる。

また、彫刻や彩色などの装飾については、ニュー・ギニア、及びその周辺部と、ポリネシアのトンガ諸島に見られる。

(3) conch-shell trumpet (ほら貝)

ほら貝はオセアニア全域に分布しているが、現段階では資料の記述の矛盾もあり、縦吹きと横吹きの別と貝との種類の関係を明確に特定できない。しかし、マウス・ピースの有無の点からは、マウス・ピースはポリネシアのみの要素であると言え、ニュー・ジーランド、マルケサス諸島、ササイエティ諸島、ツブアイ諸島に現れている。

(4) panpipes (パンパイプス)

panpipes はメラネシア、並びに、西ポリネシアのトンガ諸島、サモア諸島、ツブアイ諸島にか

柱：オセアニアの音楽 (1) —オセアニアにおける楽器の分布と伝播—

表4：sult-drum (スリット・ドラム) の特徴の分布

番号	楽器名	特徴	地域 1	地域 2	ソース
23	slit-drum	直立	New Hebrides	Malekula	1,7
25	slit-drum	直立	New Hebrides	南部	1
24	slit-drum	直立	New Hebrides	Ambrim	14
568	slit-drum	直立	Admiralty Is.	Manus District	14
569	slit-drum	直立	Admiralty Is.	Manus Is.	14
316	slit-drum	直立	Samoa Is.		5
215	slit-drum	直立	Society Is.	Tahiti	3
650	slit-drum	ボート型	Futuna		30
651	slit-drum	ボート型	Loyalty Is.	Uvea	4,30
654	slit-drum	ボート型	New Guinea	北部海岸	30
375	slit-drum	ボート型	Hawaii Is.		7
653	slit-drum	ボート型	New Zealand		12,30
400	slit-drum	円筒型	Admiralty Is.		7
358	slit-drum	円筒型	Bismarck Is.	New Hanover	7
132	slit-drum	円筒型	Ontong Java		1
397	slit-drum	円筒型	Papua New Guinea	E.Sepik Province	7
398	slit-drum	円筒型	Papua New Guinea	Sepik川流域	7
509	slit-drum	円筒型	Tonga Is.		3,4,9
5	slit-drum	スリット槽型	Fuji Is.	Viti Levu 1	1,4,7,9,30
3	slit-drum	スリット槽型	Fuji Is.	Viti Levu 1	1,7,9
650	slit-drum	スリット槽型	Futuna		30
651	slit-drum	スリット槽型	Loyalty Is.	Uvea	4,30
656	slit-drum	スリット槽型	Cook Is.	Mangaia 3	3,30
375	slit-drum	スリット槽型	Hawaii Is.		7
653	slit-drum	スリット槽型	New Zealand		12,30
318	slit-drum	スリット槽型	Samoa Is.		3,5
400	slit-drum	装飾	Admiralty Is.		7
532	slit-drum	装飾	Papua New Guinea	E.Sepik Province	11
65	slit-drum	装飾	Papua New Guinea	Sepik regions	1
398	slit-drum	装飾	Papua New Guinea	Sepik川流域	7
66	slit-drum	装飾	Papua New Guinea	島しょ部 14	1,14
509	slit-drum	装飾	Tonga Is.		3,4,9
358	slit-drum	バチ1本	Bismarck Is.	New Hanover	7
397	slit-drum	バチ1本	Papua New Guinea	E.Sepik Province	7
170	slit-drum	バチ1本	Cook Is.	Aitutaki	3
171	slit-drum	バチ1本	Cook Is.	Mangaia	3
169	slit-drum	バチ1本	Cook Is.	Rarotonga	3
248	slit-drum	バチ1本	Samoa Is.		3,5
319	slit-drum	バチ1本	Samoa Is.		3,5
510	slit-drum	バチ1本	Tonga Is.		9
3	slit-drum	バチ2本	Fuji Is.	Viti Levu 1	1,7,9
132	slit-drum	バチ2本	Ontong Java		1
121	slit-drum	バチ2本	Solomon Is.	Malaita	1
656	slit-drum	バチ2本	Cook Is.	Mangaia 3	3,30
320	slit-drum	バチ2本	Samoa Is.		5
511	slit-drum	バチ2本	Tonga Is.		3,9
509	slit-drum	バチ2本	Tonga Is.		3,4,9
318	slit-drum	バチ2本	Samoa Is.		3,5

表5：conch-shell trumpet (ほら貝) のマウス・ピースの分布

番号	楽器名	特徴	地域 1	地域 2	ソース
622	conch-shell trumpet	マウス・ピース	New Zealand		12,13,30
353	conch-shell trumpet	マウス・ピース	Marquesas Is.		3,6,7,30
216	conch-shell trumpet	マウス・ピース	Society Is.	Tahiti	3,30
623	conch-shell trumpet	マウス・ピース	Tubuai Is.		3,30

けて広範囲に分布する楽器である。

panpipes の構造上の相違として、(1) 1列の panpipes (2) 1列で配列が不規則な panpipes (3) 2列の panpipes (4) 配列が湾曲状の panpipes (5) 管の上部に溝が入れられている panpipes (6) 木片を複数の管を繋ぎ合わせるための支えとしている panpipes という基準を取り出し、分布の仕方を検討した。これらの特徴の多くはメラネシアからポリネシア西部にかけて広範囲に分布

表 6 : panpipes (パンパイプス) の特徴の分布

番号	楽 器 名	特 徴	地 域 1	地 域 2	ソ ー ス
686	panpipes	1列	Admiralty Is.		7,30
531	panpipes	1列	New Hebrides	Santo	1,10
48	panpipes	1列	Papua New Guinea		1
51	panpipes	1列	Papua New Guinea	E.H.Province	1
98	panpipes	1列	Solomon Is.	Bougainville	1,7,30
574	panpipes	1列	Solomon Is.	Buka	14
119	panpipes	1列	Solomon Is.	Malaita	1,7
683	panpipes	1列	Tonga Is.		3,4,30
684	panpipes	1列	Samoa Is.		3,5,30
686	panpipes	1列長さ不規則	Admiralty Is.		7,30
688	panpipes	1列長さ不規則	New Hebrides	Malekula	30
98	panpipes	1列長さ不規則	Solomon Is.	Bougainville	1,7,30
110	panpipes	1列長さ不規則	Solomon Is.	Malaita	1
684	panpipes	1列長さ不規則	Samoa Is.		3,5,30
683	panpipes	1列長さ不規則	Tonga Is.		3,4,30
679	panpipes	2列	Fuji Is.		4,30
48	panpipes	2列	Papua New Guinea		1
681	panpipes	2列	Solomon Is.		7,30
99	panpipes	2列	Solomon Is.	Bougainville	1
573	panpipes	2列	Solomon Is.	Buka	14
443	panpipes	2列	Solomon Is.	Guadalcanal	7
680	panpipes	2列	Samoa Is.		5,30
626	panpipes	2列	Tubuai Is.		30
48	panpipes	環状	Papua New Guinea		1
685	panpipes	上部に溝	Bismarck Is.		30
443	panpipes	上部に溝	Solomon Is.	Guadalcanal	7
684	panpipes	上部に溝	Samoa Is.		3,5,30
683	panpipes	上部に溝	Tonga Is.		3,4,30

し、明確な分布のパターンを導き出すことはできなかったが、配列が湾曲状の panpipes はパプア・ニュー・ギニアのみに現れている。また、管の上部の溝はメラネシア島嶼部のビスマルク諸島、ソロモン諸島と、ポリネシア西部のサモア諸島、トンガ諸島に現れ、分布の範囲がやや東に片寄っているといえる。

(5) ドラム類

ドラム類は、メラネシアではニュー・ギニア島とその周辺、ポリネシアではニュー・ジーランドを除いてほぼ全域に、また、ミクロネシアでは、ポナペ島以東に存在する。

ドラム類の構造上の重要な特徴としては、皮の張り方が第1に挙げられる。ニュー・ギニア島では、皮を胴に接着剤で貼り付け、その上を締輪で固定するという方法が一般的で、この方法では皮に緊張をそれほど与えることはできない。したがって、分厚い締輪を造り、それを胴に押込んで皮に緊張を与えたり、くさびを入れて緊張を与えるという方法も見られる。一方、ハワイ諸島、マルケサス諸島、ササイエティ諸島といった、ポリネシアの東部、周辺部では鼓面と垂直方向に締紐を渡して皮に緊張を与えるという方法が採られている。ニュー・ギニア島のイリアン・ジャヤでもこの方法が用いられている例があるが、その技術は稚拙であり、胴の周囲に長い締紐を渡した皮の張り方は、主としてポリネシアで支配的な要素であるといえる。また、皮に縫目状に紐を通して皮を固定する方法はポリネシアのハワイ諸島とマルケサス諸島に見られ、これも、ポリネシアの東部と周辺部で発達した要素であるといえる。

地域が限定されて現れる他の構造上の特徴として、楽器の形状、片面か両面かの区別、バチの有無などが挙げられる。

オセアニアのドラムは、胴が円筒型で直立したものが一般的であるが、胴にくびれが入った砂時計型のドラムは、ニュー・ギニア島とその周辺の島嶼部、及びミクロネシアのポナペ島とマーシャル諸島に現れ、ポリネシアには分布していない要素である。

柱：オセアニアの音楽 (1) —オセアニアにおける楽器の分布と伝播—

表 7：ドラム類の特徴の分布

番号	楽 器 名	特 徴	地 域 1	地 域 2	ソ ー ス
409	drum	締め紐	Irian Jaya	Vogelkop Peninsula	7
230	drum	締め紐	Hawii Is.		3,4,7,30
231	drum	締め紐	Hawii Is.		3,4,7
411	drum	締め紐	Marquesas Is.		3,4,6,7
205	drum	締め紐	Marquesas Is.		3,4,6,7,30
214	drum	締め紐	Society Is.	Tahiti	3,30
231	drum	縫目状	Hawii Is.		3,4,7
205	drum	縫目状	Marquesas Is.		3,4,6,7,30
409	drum	くさび	Irian Jaya	Vogelkop Peninsula	7
403	drum	くさび	Irian Jaya	Vogelkop Peninsula	7
408	drum	くさび	New Guinea		7
341	drum	両面	Samoa Is.		5
342	drum	両面	Samoa Is.		3,5
218	drum	両面	Society Is.	Tahiti	3,30
524	drum	両面	Tonga Is.		9
231	drum	バチ	Hawii Is.		3,4,7
524	drum	バチ	Tonga Is.		9
407	drum	装飾	Irian Jaya	Seantani Lake	7
403	drum	装飾	Irian Jaya	Vogelkop Peninsula	7
404	drum	装飾	Irian Jaya	Yapen Is.	7
230	drum	装飾	Hawii Is.		3,4,7,30
411	drum	装飾	Marquesas Is.		3,4,6,7
205	drum	装飾	Marquesas Is.		3,4,6,7,30
193	drum	装飾	Tubuai Is.	Raivavae 3	3,4,30
203	drum	マット	Gambier Is.	Mangareva	3
231	drum	半円球	Hawii Is.		3,4,7
218	drum	樽型	Society Is.	Tahiti	3,30
160	box drum	箱型	Gilbert Is.		2
419	hourglass shaped drum	砂時計型	Irian Jaya		7
417	hourglass shaped drum	砂時計型	Papua New Guinea	Sepik川流域	7
89	hourglass shaped drum	砂時計型	Papua New Guinea	E.H.Province	1
90	hourglass shaped drum	砂時計型	Papua New Guinea	S.E.H.Province	1
360	hourglass shaped drum	砂時計型	Papua New Guinea	W.E.H.Province	7
563	hourglass shaped drum	砂時計型	Papua New Guinea	島しょ部	14
508	hourglass shaped drum	砂時計型	Marshall Is.	Jaruit Atoll	2,7,8
148	hourglass shaped drum	砂時計型	Ponape		2

特異な形をしたものとしては、胴が半円球型をしたハワイ諸島のドラム、樽型をしたタヒティ島(ササイエティ諸島)のドラムがあり、分布の中心から見ると、周辺部に位置している。

装飾的な台座が繰り抜かれたドラムはポリネシアの要素であり、マルケサス諸島とハワイ諸島に見られる。一方、ニュー・ギニア島の装飾は、ドラムの取っ手の彫刻やドラムの胴の彩色となっている。また、両面太鼓、及び、バチはポリネシアだけに見られる要素であり、それぞれ、ポリネシアの広い範囲に渡って分布している。

5. オセアニアにおける楽器の分布と伝播

以上、オセアニアにおける楽器、及び構造上の特徴の分布の仕方を見てきたが、最後に、楽器全体の分布、及び伝播の仕方について論じることとする。しかし、現段階では、細かな情報が不足している上に、情報がほとんど得られない地域もあるので、今後の研究のための仮説を導くという程度にとどめたい。

楽器の種類が豊富なのは、メラネシアのニュー・ギニア島、ビスマルク諸島、ソロモン諸島であり、ニュー・ギニア、及び、その周辺の島々が楽器の分布の中心地であるといえる。しかし、これらの地域に隣接するフィジー諸島やトンガ、サモア諸島も楽器の種類が豊富であり、スリット・ドラム、stamping tube、panpipes など、ニュー・ギニア周辺と共通する楽器も多いし、また、jew's harp(口琴)の切出し弁や、panpipes の管の上部の溝、円筒型のスリット・ドラムなど、共通する楽器の構造も多い。「トンガ諸島とサモア諸島は、ポリネシアの入口であり、メラネシアの

文化を受入れた。』⁽¹⁰⁾といわれるように、トンガ諸島とサモア諸島は、メラネシアから伝播した楽器を受容する役割を果たしたと思われる。しかし、そのままの形で受入れるのではなく、楽器を造り変えることも同時にした。スリット・ドラムについては、小型化したり、スリットを広く、槽型にしているし、ドラムは両面にしたり、パチで演奏するように変えられている。また、口琴の素材も椰子の葉の主脈が用いられている。

ポリネシアでは、ダンスの伴奏として「叩く」という動作が、重要な位置を占めているが、このことは、西洋から移入された製品を楽器に転用することにも現れている。ビンや缶、ガス・ボンベなども、楽器として用いられているし、ドラムの皮の代用として、マットが用いられている例もある。民族の移動のルート上にある島々は、一般に文化の受容能力が高く、このことが、ポリネシアの西部ではメラネシアと共通の楽器を多く持ちながらも、楽器を改変していった要因になったと推測される。それは、謂わば噂の流し手が、外から得た情報を勝手に解釈するのと似ている。

一方、分布、伝播の中心地の近くにありながらも、民族の移動、交易の主要ルートから外れた地域は、独自の楽器を余り産みださなかったし、音楽的にも洗練されていないようである。ニュー・ヘブリデス諸島では、山地に定着し、孤立して生活する部族も多いため、楽器の改変という面では、目だった特徴は示していないし、楽器の種類からも、中心の文化を取入れ、ニュー・ギニアと共通するものも多いが、それほど大きな相異はない。

ところが、ハワイ諸島やニュー・ジーランドのようなポリネシアの周辺部、あるいは、マルケサス諸島のような東部では、他地域の影響を受けながらも、独自の楽器を発展をさせている。ドラム類も、造り方が洗練されているし、形状も他の地域には見られないものに変わってしまっている。slit-drumも sounding board(サウンディング・ボード)と呼ぶ方が相応しいような形状になっている。また、ハワイ諸島、ニュー・ジーランドでは、他の地域に見られないような独自の楽器も多い。資源に恵まれていたこともあるが、これらの地域では文化を仲介する島々の手から離れて、楽器を洗練かすると同時に、独自の楽器を産みだしていったといえるのではないだろうか。

オセアニアにおける民族移動の最終地はハワイ諸島とニュー・ジーランドであるが、「文化が伝播する時には、中心地の文化を媒介する島々があり、直接的には関係を持たない離れた地域の文化がそれらの島々に刺激されながら、独自の洗練された文化が発達する」という文化接触のモデルを仮定してもよいのではないだろうか。

なお、ミクロネシアについては、楽器の種類が少な過ぎるために、他の地域との関係を特定することはできないが、特にミクロネシアの東部では、メラネシアの影響が強いと思われる。

7. 今後の課題

楽器の分布状況から、オセアニアの各地域間の相互関係を導き出すためには、今回用いたデータは地域的な偏りがあるし、また、楽器の構造や演奏法が不明なものも多い。今後は、利用できるビデオ・テープや図版などから、それらを特定したり、他の文献資料も用いて、全地域に渡る、ある程度、詳細なデータを収集すると共に、オセアニアの地域区分、並びに楽器に利用できる資源を再考し、それぞれの地域の因子を分析することによって、相互関係を導き出す予定である。

さらに、音楽構造の面からの考察も織込んで、地域間の関係を導き出すことも今後の課題である。

注

- (1)資料として用いた文献は、ソース番号が文献表に記されている。
- (2)分類のレベルが統一されていないので、正確な数字はそれほど意味をもたない。
- (3)長さの異なる数本の管を、筏状に1列、あるいは2列に結び合わせた楽器。また、束状に結び

- 合わせられたものもあり、本文では *bundled panpipes* と記されている。
- (4) 共にダンスに用いられるが、*dance sticks* は、1人が1本の長い棒を持ち、*struck sticks* は、1人が2本の短い棒を持って打ち合う楽器。
- (5) 中が空洞になった円筒形状の木塊を水に入れて、鈍い音を出す。本来の意味でのドラムではなく、気鳴楽器。
- (6) 木の容器に管を差込み、管に息を吐いて音を発する。
- (7) 他の地域のもは、地面の上に置かれた木の板を足で踏みつけるのに対して、ハワイ諸島のもは、足の裏に板状の木を付け、地面を打つ。
- (8) 各楽器の構造上の特徴の分布を示す表に記されている数字は、データ・ベースに入力した際の整理番号である。したがって、同一番号は同一楽器のデータであることを示している。
- (9) 杵から細長く突き出た弁を指で弾いたり、紐で引張って振動させて出した音を、口腔を共鳴器として音を大きくして鳴らす楽器。体鳴楽器の1種。
- (10) 太平洋文化研究所、所長、岩佐嘉親氏とのインタビューから。

参 考 文 献

Barrow, T. (1965)

Music of the Maori, Seven Seas Publishing. ソース13.

Beieru, Uli

レコード解説 “Papua New Guine (Manus・Bougainville)”, Ocoro. ソース14.

Chistensen, Dieter et al (1983)

Grove's Dictionary of Music and Musician, “Micronesia”の項目、Macmillan, 6th Edition. ソース2.

Collaer, Paul (1985)

「人間と音楽の歴史・オセアニア」、音楽之友社 ソース7.

Crowe, Peater (1981)

“Polyphony in Vanuatu”, Ethnomusicology, Vol.25, No.3, p.419-423. ソース10.

Damm & Sarfert (1935)

“Inseln um Truk”, Ergebnisse der Südsee-Expedition, Band 6. de Gruyter. ソース19.

Damm, Hans (1938)

“Zentralkarolinen”, Ergebnisse der Südsee-Expedition, Band 10. de Gruyter. ソース18.

Fischer, Hans (1961)

“Polynesishe Musikinstrumente: Innerpolynesishe Gliderung—ausserpolynesische Parallelin”, Zeitschrift für Ethnologie, Vol.86, No,2, p.282-302. ソース30.

Handy, E.S.Craighill & Winne, Jane Lathrop (1925)

Music in the Marquesas Islands(Bernice P.Bishop Museum Bulletin 17), Bernice P. Bishop Museum. ソース6.

Hornbostel & Sachs, C. (1914)

“Systematik der Musikinstrumente”, Zeitschrift für Ethnologie, Vol.46.

石川栄吉(1987)

「オセアニアの構造」、『民族の世界史14オセアニア世界の伝統と変貌』、山川出版社

岩田潤子(1986)

『ヤップ島音楽の人類学的考察』、大阪音楽大学卒業論文 ソース16.

Kaepler, Adrienne (1980)

“Polynesian Music and Dance”, *Musics of Many Cultures*, May, Elizabeth ed., University of California Press. ソース30.

桂博章 (1988)

「ミクロネシア音楽にみる文化接触の諸層」、『岩波講座 日本の音楽・アジアの音楽3』、p. 183-206、岩波書店

Moyle, Richard (1974)

“Samoan Musical Instruments”, *Ethnomusicology*, Vol.18, No.1, p.57-74. ソース5.

Moyle, Richard (1975)

“Conch Ensembles: Tonga's Unipue Contribution to Polynesian Organology”, *Galpin Society Journal*, Vo.28, p.98-106. ソース15.

Moyle, Richard (1977)

“Tongan Musical Instruments”, *Galpin Society Journal*, Vol.30, p.86-111. ソース9.

Smith, Barbara B. et al (1983)

Grove's Dictionary of Music and Musician, “Micronesia”の項目、Macmillan, 6th Edition. ソース2.

Spearritt, Gordon (1982)

“The Pairing of Musicians and Musical Instruments in Iatmul Society”, *Yearbook of the International Folk Music Council*, Vol.14, p.106-122. ソース11.

田辺尚雄 (1968)

「南洋・台湾・沖縄音楽紀行」(東洋音楽選書5)、音楽之友社 ソース8.

山口修 (1969)

「楽器分類学序論」、『武蔵野音楽大学研究紀要』、Vol.3, p.187-197. ソース17.

山口修 (1981)

「音楽大辞典」、『マオリの音楽』の項目、平凡社 ソース12.

Zemp, Hugo (1983)

Grove's Dictionary of Music and Musician, “Melanesia”の項、Macmillan, 6th Edition. ソース1.

Summary

The purpose of this thesis is to bring out the patterns of the distribution of the musical instruments in Oceania through the existence of the instruments and the distribution of the structural features of the specific instruments, so that to set up hypothesis about the way of the diffusion of the musical instruments.

The documents and the pictures concerning to the instruments of Oceania were pigeonholed by date processing using, and the following hypothetical conclusions were obtained.

- 1) Melanesia is the diffusional center of the musical instruments in Oceania, and Melanesia and Western Polynesia hold many instruments in common.
- 2) It can be supposed that Western Polynesia accepted the instruments from Melanesia altering the structure, the shape, and the way of performing of the instruments, and that at the same time mediate the instruments to Eastern Polynesia.

3) In Margina Polynesia, the instruments had developed and sophisticated in its own way.